

牧野先生御指導のもと朝から赤羽の志村辺へ植物採集に出かけた。この辺からははるかに武蔵野が見渡される。この空気の清い静かな野の中に一日を自然にしたしむ私どもは何んて幸福なのだろうか――

これは、大正十一年十月に成蹊女学校の生徒たちが赤羽・志村方面へ植物採集に出かけたときの日記の一部です。指導にあたる牧野先生とは、わが国の植物分類学の父といわれ、『牧野日本植物図鑑』で有名な牧野富太郎博士のことです。当時、成蹊女学校校長中村春二は、研究上で不遇であり困窮していた牧野博士の活動を支援していました。これが機縁となつて、この年の「夏の学校」から、博士は成蹊学園で植物採集指導や講義を行うようになったのでした。

明るく親しみやすい人柄だった牧野博士は生徒にとっても人気がありました。自らを「草木の精」と称した博士はユニークな逸話に事欠きませんが、成蹊女学校でも、植物採集で見つけた新種の植物に「せいけいもめんづる」という名前をつけたとか、湖の浮島の上でびんびん跳ねたり、鳥のふちをもつてクルクル廻してみせて生徒たちを驚かせたとか、そのユーモアを伝える逸話は数多く伝わっています。しかし、なによりも生徒たちにとつて、牧野博士から植物の講義を受けながら一緒に野山を歩いたことは、このうえなく楽しく貴重な体験だったようです。

中村春二は、女性教育についてこの頃「政治に関してや社会の二員として目醒めさすと、少くとも同等または同等以上の程度に於て、大自然の一人として目醒める必要がある」と語っていました。そのうえで「植物の知識についても「決して家事的の事に劣らない」として、重視

### 牧野富太郎と植物採集 - 自然に学ぶ意味 -



していました。これは植物を通して自然にふれることが「人の心を静穏」にさせ、「家庭の空気を浄化」することになり、将来的に家庭を築いていく女子の教養として大切であると考へていたからです。こうした考へは「草木に愛を持つこと」によつて人間愛を養うことができる」という牧野博士の信念とも共通しており、これこそ中村が牧野博士を招いた真の目的でした。

「植物採集」には、自然に目を向けて豊かな感受性を育むとともに、二流の知識をもって生徒たちの好奇心と知識欲を満たすことで、確かな人格を育てていきたいという中村春二の教育への熱意がこめられていたのです。

(成蹊学園史料館 水野京子)

(写真)植物の講義をする牧野富太郎

### Contents

- 2 創立100周年記念事業 小学校本館誕生
- 4 第2回 成蹊音楽祭
- 5 桃李の人々(西原 春夫)
- 8 成蹊教育のいま(宮本 浩司)
- 9 クローズアップ  
2008年度成蹊大学社会活動支援奨学金
- 10 大学の近況
- 12 中学・高等学校の近況
- 14 小学校の近況
- 16 募金局だより
- 19 学園トピックス
- 20 成蹊教育を知る

成蹊教育の本質は「リーダー学」。  
それが私の基礎になっています

元早稲田大学総長・前国土館理事長  
西原 春夫

インタビュー  
桃李の人々



学園創立100周年記念事業

少人数教育に相応する小学校本館が誕生  
携帯電話からの募金申込システム稼動



成蹊学園広報

2008年11月10日 発行  
学校法人 成蹊学園総務部広報課  
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話(0422)37-3517  
URL <http://www.seikei.ac.jp> e-mail [koho@jim.seikei.ac.jp](mailto:koho@jim.seikei.ac.jp)



# 「個性を持った自立的な人間の創造」へ 小学校本館誕生

2008年7月、小学校の新校舎が完成しました。  
創立100周年記念事業「新・成蹊創造プラン」の一環として、  
小学校が2005年より段階的に進めてきた「28人・4学級体制」と連動し、  
少人数教育を根幹に置いた教育のさらなる向上を実現させます。

## 豊かな教育環境のための3つのコンセプト

あかるい あんしん やさしい



### 六年間の「教室の旅」へ誘う新校舎

新校舎は三階建ての構造となっています。このことにより、低・中・高学年の学習と生活がフロアごとに独立したものとなりました。さらに、フロアの二つの学年は、中央階段のスペースをはさんで東側と西側に分かれ、それぞれの学年の教室とワークスペースが配置されています。

小学校は全学年共通の生活時程で過ごしていますが、四十五分という授業単位の運用の仕方は、学年段階によって異なっています。六才から十二才という子どもたちの学齢を配慮した多様な空間の利用を保障してくれることが、新校舎の構造の最大の特徴といえます。



全室南面採光の明るい教室

低学年は、読み聞かせコーナーやけやきホールに隣接し、中・高学年は、パソコンや具体物教材を設置したワークスペースが教室の前に広がっています。このように、階段を昇るごとに表情を変える新校舎は、子どもたちの六年間を「教室の旅」に誘ってくれるのです。

### 明るく広い環境で、のびのび学習

一つの教室を見ても、南面のテラスと北面のワークスペースは、子どもたちの学習を容易に拡大させる広い空間として利用できます。さらに、学年の四教室に連なるテラスとワークスペースは、学級独自の活動ばかりでなく、学年の活動にも対応できるものとなりました。こうした新校舎の構

らしいことです。

文化祭の日曜日には、秋の日差しの中で各学年の子どもたちがウッドデッキテラスでお弁当を広げる光景も見ることができました。学習に遊びに、これからも多様な活用法が生まれてくるものと楽しみにしています。

このほかにも、図書室の自由読書ができるコーナーは大人気で、毎日多くの子どもたちがゆったりと読書を楽しんでいます。

### 開放的な空間が生み出す「ゆとり」

新本館では、各階に防犯カメラが設置されたので、休み時間や専科移動時間の子どもたちの動きを確認することができます。そこで気がついたのは、多くの子どもたちがゆとりと移動していることでした。これまで「走らないで歩こう」という注意や呼びかけを繰り返してきた小学校でした。トンネル山校舎ではカーブミラーまで設置していたほどです。ですからこれは思いがけない変化でした。しかし、多くの子どもたちがゆとりと行動している姿は、新本館の広々とした空間が生み出した結果に違いないと思えるのです。

そしてゆとりは安全に直結します。中央館の小学校玄関から新本館に向かう通路は、一階への平面通路と二階への階段通路が用意されています。三年生以上の子どもたちには二つの選択肢があります。これも生活のゆとりと安全に繋がっています。また、緊急時の避難路の選定という意味でも大切な構造上の特徴であるといえます。



教室と同じ広さのテラス

英語の時間には、テラスで子どもたちが大きな輪になって学習していました。学級担任ばかりでなく専科担任も、教室の延長としてのウッドデッキテラスやワークスペースでの学習を自由に構

### 遊び方・学び方の可能性がますます広がる

新校舎での生活が始まって最初の変化は、やはり「遊び」です。教室の南側に広がるウッドデッキテラスで、さっそく大縄跳びが始まりました。ボール遊びはしない約束ですが、子どもたちは遊びの天才です。これからも、広いテラスで楽しい遊びを生み出してくれることでしょう。



樹木や水生植物を植えたビオトープ

ところで、各学年の「学校探検」での人気スポットは、ビオトープ・屋上庭園・岩石園でした。こうした自然環境への関心の高さは、今後の環境学習にも良い影響を与えるものも期待しています。



中央館・松林館へつづく連絡通路



ひろびろとしたワークスペース

造上の特徴を、小学校の教育目標としての子ども像「自立・連帯・創造」を教育空間に実現させたものと位置づけています。さらに全教室南向き採光を取り入れた階段状の建物は、北側に吹き抜けのけやきホールや図書スペースを生み出しました。そして、北側外壁には全面ガラスが採用されたので、予想以上の明るくのびのびと過ごせる空間となりました。

### 子どもたちの歓声が響いた始業式

子どもたちが新校舎に初めて入ったのは、二期の始業式の日でした。子どもたちは、まず教室の新しい備品に歓声をあげました。机も椅子も、黒板も新しくなったからです。これまで壁から突き出していたロッカーや廊下のハンガー掛けなどが全て壁面に埋め込まれたので、教室の中が広々として過ごしやすいようになりました。次に子どもたちが目を見張ったのは、ウッドデッキテラスやワークスペースの



読み聞かせコーナー

## 子どもたちの声

いちばんきにいったのは、おくじょうにあるおにわです。ぼぶらぐらんどや、まわりにあるいえがちいさくみえました。(二年男子)

新校舎にはいるのが毎日のしみです。中はとてもきれいで、ゆかはずんぶ木できています。(二年女子)

テラスの前はみどりや、いっぱい色々な花や木があって、森みたいでした。(二年男子)

とだながたくさんあって、とってもべん強しやすい教室でした。これからべん強するのが楽しみです。(三年女子)

ゆかやかべがきれいで、なぜかきんちようしました。今度テラスでひなたぼっこをしたいと思います。(三年女子)

成蹊小学校のすてきな校しや。次の一年生にぜったい、その次もその次の次にも、とってもきれいな校しやをこのままきれいに残したい！(四年女子)



**水泳部の活動に没頭 卒業後に監督も務める**  
 — 小学校から高校まで成蹊学園で学ばれていますが、入学されたきっかけは何だったのでしょうか。  
**西原 父（慶一氏）**が成蹊小学校で教鞭（国語）をとっており、当時は教職員の子弟は授業料が免除だったので、入学することになったのだと思います。自宅も学園のすぐ近くで、成蹊に通うのが当たり前といった感覚でした。  
 — 昭和十年の入学ですから、戦争の影響も大きかったのではないですか。  
**西原** 確かに、戦争の足音がひたひたと近づいていた時期であり、小学校一

元早稲田大学総長  
 前国士館理事長

# 西原 春夫

Haruo Nishihara

早稲田大学総長、国士館理事長、日本私立大学団体連合会会長などを歴任し、日本の大学界のリーダーとして活躍されてきた西原春夫さん。他校のトップを務められたご経験を踏まえて、成蹊学園の教育の本質について語っていただきました。

年生の時には二・二六事件が起こりました。そんな小さい頃なら、遠い世界の出来事として印象に残らないのではないかと思われるかもしれませんが、けれども、成蹊の生徒にとってはきわめて身近な事件でした。犠牲者の子どもが二人、成蹊小学校で学んでいたからです。しかも、陸軍教育総監・渡辺錠太郎大将の娘さんは、二学年上で、私の姉の友人でした。さらに、翌年に日中戦争が勃発。第一陣の出征者の一人であった寺田猛先生が、直後に上海で戦死されたのですが、その娘さんも私の同級生でした。幼心に相当な衝撃を受けたのを覚えています。  
 その後、中学校に入学した年に太平洋戦争に突入し、まさに戦争の真只中で学園生活をおくりました。ただし、昭和十九年までは日常の学業にはほとんど影響は感じられませんでした。授業も、放課後の部活動、さまざまな行事なども、それまでと変わらず堅持されていました。

— 部活動は何をされていたのですか。  
**西原** 中学校から水泳部に所属しました。戦後は大変な食料難の時代で、米の飯も夜一回食べられればまだいい方で、いつも空腹に堪えながら練習していました。節約のために、プールの水を換えることもできませんから、暖かくなると藻が大量に発生して、それを真空掃除機で吸い取って泳いでいました（笑）。  
 — 水泳部の成績はどうだったのですか。  
**西原** その頃の成蹊は大変な強豪校だったのですよ。とくに私が最上級生になった昭和二十二年には、インターハイの関東大会で優勝、全国大会でも準優勝に輝きました。加えて、当時は旧制高等学校も大学と同じ大会に出場できたのですが、何と、関東学生選手権の一部（三部制）で大学生を撃破し、優勝を達成。全日本学生選手権にも出場しました。  
 さらに卒業後、私は早稲田大学に通いながら、成蹊中学校水泳部監督を二年間



## 成蹊学園創立 100周年記念

# 第2回『成蹊音楽祭』開催

テーマ：「<sup>いえ</sup>字は大なり」

開催日 **2008年12月21日（日）**  
 13:00(開場 12:30) ~ 17:30 (二部構成)

会場 大学4号館ホール

		出演団体
第一部	成蹊音楽祭 13:00 ~ 16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 小学校 箏曲有志の会</li> <li>■ 保護者 成蹊コーラス</li> <li>■ OB 成蹊グリークラブ</li> <li>■ 小学校 ブラスバンド部</li> <li>■ 中学・高等学校 ウィンド・オーケストラによるアンサンブル</li> </ul>
		休憩 (15分)
第二部	特別演奏会 16:30 ~ 17:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中学・高等学校 ストリング・オーケストラ</li> <li>■ 大学管弦楽団 OB・OGオーケストラ</li> </ul>
		休憩 (30分)
特別演奏会	16:30 ~ 17:30	サックス奏者 本多俊之スペシャルセッション

お問い合わせ先>>>広報課：電話 (0422) 37-3517  
 \*詳細は決定次第HPなどでお知らせします。http://www.seikei.ac.jp/gakuen/ongakusai.html

成蹊学園の音楽団体と卒業生の  
 スペシャル・セッションをお楽しみください

成蹊学園では、二〇〇八年十二月二十一日（日）、「成蹊音楽祭」を開催します。「成蹊音楽祭」のテーマは「<sup>いえ</sup>字は大なり」。成蹊の「大家族主義」をあらわすこのテーマのとおり、「成蹊音楽祭」は小学生から卒業生までの音楽団体が参加し、学園全体が一体となつて行う音楽祭です。  
 第二回となる今年は第一部で成蹊小学校、中学・高等学校の卒業生であり、指揮者として目覚ましい活躍をされている高井優希さんと、成蹊大学管弦楽団、OB・OGオーケストラとの共演、第二部では成蹊中学・高等学校、大学の卒業生であり、日本を代表するサックス奏者である本多俊之さんによるスペシャル・セッションが行われます。  
 本音楽祭は在校生、卒業生、保護者、教職員、旧教職員、武蔵野市在住・在勤・在学の方々を対象としています。事前申込は不要ですので、皆さまお気軽にご来場ください。

### 出演者プロフィール 音楽界で活躍されているお二人をお迎えます。



たかい ゆうき  
**高井 優希 氏**  
 指揮者

1984年、東京生まれ。成蹊小学校、中学校を経て2003年、成蹊高等学校卒業後、東京藝術大学音楽学部指揮科入学、2007年、同大学首席卒業。アカンサス音楽賞受賞。これまでに、東京室内歌劇場公演「青空を射つ男」『アルレッキーノ』(2004)、藤原歌劇団公演『ラ・ボエム』(2007)、日本オペラ団体連盟人材育成公演『魔笛』(2007)などの副指揮者を務めたほか、多くの市民オーケストラ、合唱団などの指揮および指導に関わる。  
 2007年12月、オペラ『白狐』の世界初演（戸口純作曲の完全版として）を指揮、公演を成功へと導いた。岡倉天心によってその台本が書かれている「幻のオペラ」の演奏は、非常に大きな注目を集めた。国内外で今後の活躍が最も期待されている若手指揮者の一人。



ほんだ としゆき  
**本多 俊之 氏**  
 サックス奏者／作・編曲家  
 プロデューサー

1957年、東京生まれ。成蹊中学・高等学校を経て、1981年、成蹊大学経済学部を卒業。大学在学中の1978年に初のリーダーアルバム「パーニング・ウェイヴ」を発表。  
 以来、内外の著名ミュージシャンと共演。日本を代表するサックス奏者である。特にソプラノ・サックスの音色の美しさには定評があり、右に出る者はいない。  
 作・編曲家としても、TVドラマ、CM、映画、クラシック音楽まで多才な才能ぶりはよく知られるところ。すでに26枚ものオリジナル・アルバムをリリースし、サウンドトラック・アルバムも多数リリース。デビュー以来、常にトップアーティストとして活動を続けている。



西原 春夫（にしはら・はるお）

1928年、東京都生まれ。成蹊小学校、旧制高等学校を経て、早稲田大学第一法学部を卒業。同大学大学院法学研究科博士課程修了。同大学の助手、講師、助教授を経て、1967年に教授となる。1982年に総長に就任。総長在職中に、日本私立大学団体連合会会長、文部省大学設置・学校法人審議会会長などを兼任。1998年からは学校法人国土館理事長の職にあたり、2005年から名誉顧問に就任。現在、特定非営利法人・アジア平和貢献センター理事長も務めている。主著に「刑法総論」[刑法の根底にあるもの]「21世紀のアジアと日本」（いずれも成文堂）などがある。2007年11月、叙勲（瑞宝大綬章）。

務めました。昭和二十五年には東京都選手権で優勝を遂げ、全国大会の東京都代表八人中六人を成蹊から送り出しました。全国大会は都道府県別の対抗戦で、東京は第三位だったのですが、学校別得点を計算してみると、成蹊は圧倒的な成績で全国制覇を果たしていたのです。水泳部時代の燃えたぎるような青春のきらめきは、何ものにも代えがたい大切な思い出ですね。

それぞれの特色を發揮して役割分担することが大切

— 早稲田大学に進学され、長らく教壇に立たれたわけですが、早稲田と成蹊の違い、それぞれの特色をどうお感じになつていらっしゃいますか。

西原 私が通っていた頃の成蹊には、日本のトップリーダーの子弟が数多く通っていました。私のクラスにも、鮎川義介（日産コンツェルン）、石坂泰三（経団連会長）、山本有三（作家）などの子どもがいました。山の手の恵まれた家庭で育ち、どちらかというと保守的で、穏かな性格の生徒が多かったと思います。ですから、私は早稲田に入学したとき、大変なカルチャーショックを受けました。早稲田には全国津々浦々から、多様な階層の学生が集まってきました。大隈重信が唱えた在野精神のもと、「いざれ自分が天下をとって、号令をかけた」といった上昇志向の強い学生ばかりです。成蹊

とはまったく異なるタイプの学生たちだったのです。もちろん、だからといって、どちらが優れているのかという問題ではありません。それぞれの特色を發揮して、社会の中で役割を分担していくことが大切なのです。

成蹊はどのような役割を果たしているべきでしょうか。

西原 早稲田は法曹教育に百年余の伝統と実績を誇っているのに、日弁連の会長に選出されたのは、一昨年初めてでした。対して成蹊は、その前の二期連続して会長を輩出しています。成蹊出身者は、人を押し退けてでも上に立とうという意識は薄いにもかかわらず、「オレがオレ」が「タイプ」の早稲田出身者ではなく、結局、成蹊出身者がトップに選ばれているわけで、興味深いですね。桃李の精神のもと、派手ではないけれども、自らやるべきことをきちんと果たし、実績を積む姿勢が、自然と周りから「こういう人がトップになったら、組織は円滑に動くに違いない」と評価されるのだと思います。そして、実は、私は、成蹊教育の本質は卓抜な「リーダー学」だとも考えているのです。

言葉ではなく、体で覚えさせる教育

— どのような教育を「リーダー学」と感じられたのですか。

西原 たとえば、広大なキャンパスには、私は心力歌の教えとは、心の力と心の霊を磨けば、現世のつまらないことに拘泥することなく、宇宙の理法の基に行動できる人間になれる。それによってどんな苦難にも打ち克つことができるようになるということだと考えています。そうした心を持つことで、過激派学生も恐れるに足りないという心境に達することができました。ところが、ある日、私に対する糾弾集会が開かれることになったのです。心の力を磨いても、結局は守つてくれないではないか、心力歌なんて夢物語ではないか、そんな疑問も生じました。語ではないか、そんな疑問も生じました。けれども、糾弾集会の前夜、もう一度読み直した時に、「戦をとりてわれに迫るも、われおもむろにこれを迎ふれば。刃はわが身に加はるとも、絶えてわが血に染むことなし」の一節に触れて、不信の念を抱いたことを恥じました。心力歌は苦難が起こらないことを保証してはいない。たとえ苦難が生じても、信念を持つて悠然と誠実に対応すればいいということとを教えていたのです。この一節を読んだ、私の心は軽くなりました。しかも、不思議なことに、当日になって突然、私を集会に呼んだ派閥の学生が早稲田からいなくなり、糾弾集会は開かれませんでした。気力の戦いに勝った。そんな思いを抱きましたね。



— どのようなきっかけで心力歌を再読されることになったのですか。

西原 昭和四十年代、学生運動の風が吹き荒れていた頃、私は早稲田大学で法学部長補佐を務めていました。過激派学生との交渉に疲れ果て、何らかの心の支えになるものを求めていました。そこで思い出したのが心力歌です。さっそく成蹊を訪れて購入し、校庭の一角のベンチで読み返しました。あの時の興奮は忘れることができません。以前は意味不明だった言葉が、心にしみ入るように理解できる。しかも、心力歌に書かれている教えに、それまでの私が、知らず知らずのうちに近づこうと努力していたことにも気づいたのです。読書百遍の効果はすさまじいもので、心力歌は私の心に深く刻まれていたわけです。

— そのほか、成蹊学園の教育で印象に残っていることはありますか。

西原 朝礼の際の信念と心力歌ですね。もっとも、正直なところ、心力歌はとて

— いわゆる人間教育が実践されていたわけですね。

西原 人間教育を謳う学園は他にも少なくありませんが、成蹊の人間教育はそんなに軽々しいものではなく、壮大な理念が感じられます。しかも、言葉ではなく、体で覚えさせる教育でした。それが今日の私の精神構造の礎を築いてくれたことは間違いありません。

たとえば、小学校に入学してすぐに、担任の藤原安治郎先生から指導されたの

ドオドすることはありません。逆に劣悪な環境の場所に行っても、どんな苦難に遭遇しても平然としています。「われを深山窮谷に囚ふるもわれは怡々たり、なにか痛まむ。身は飢うるも心は飢えず、身は飽くも心は飽かず。かくの如くなるを得て後、はじめてわれ獨り尊し」の精神で、悠々と生きてこられた気がします。

学生時代に夢中になれるものを見つけてほしい

— 最後に、成蹊学園の後輩たちに向けて、メッセージをお願いします。

西原 成蹊は自由でおおらかで心豊かな学園です。その恵まれた環境の中で、ぜひ自分が夢中になれるものを見つけてほしいですね。クラブ活動でも、読書でもいい。一生懸命になるあまり、少しぐらい勉強がおろそかになってもかまいません（笑）。私の場合は、それが水泳でした。戦時中の娯楽が少なく貧しい時代で、旅行や映画にも行けないし、水泳にのみり込むしかなかったわけですが、私にとつては幸いなことでした。スポーツならではのがんばりの精神を身につけただけでなく、確実に私の人格を豊かにしてくれました。あの十年間の水泳部生活がなかったら、今日の私はないといっても過言ではないと思っています。

（広報課）

# 2008年度成蹊大学 社会活動支援奨学金

難民に、みなさんの理解・関心を。

## らくみん

代表  
メッセージ  
文学部英米文学科  
新川友加里



日本は他の先進国に比べ難民の受け入れが少ない国だということを、みなさんは知っていますか？  
私たち文学部国際社会コース2期生はこの2年間、難民について学ぶうちに、日本政府の受け入れ体制や政治的・制度的な問題に加え、私たち自身に「難民への理解と受け入れる心の準備ができていない」ことに気がきました。そこで「学んだことを形に残したい、難民のためにできることがあるのでは？」という思いを持つメンバー8名が中心になって「らくみん」を立ち上げたのです。

多くの人に難民について知ってもらうことを目標に始めた「らくみん」ですが、活動を続けていくうちに、情報を発信することの難しさを知りました。私たちが伝えたいものが受け手にとってのすべてになるかもしれない。だから誤ったことを伝えられませんか。特に難民問題は政治、人種、国籍、宗教など、さまざまな要因が複雑に絡み合っているからこそ、多角的な視点からの情報を提供する必要があります。限られた知識しか持ち得ない私たち学生が、どのように発信していくべきか——自分たちの勉強不足を痛感しながら思考錯誤をくり返してきました。  
「らくみん」の活動は今年12月で終了する予定ですが、インプットした学びをできるだけアウトプットしていきたい。樺祭での企画展示と12月下旬のイベントにその思いをぶつけていくつもりです。

●メンバー構成：文学部国際社会コース2期生  
●活動内容：「日本に難民がいること」を少しでも多くの人に知ってもらい、日本における難民への認識を深めるための活動

### 活動実績

■飲料および資料の配布  
より多くの人に難民の存在を知ってもらうために、日本にいる難民の国の飲み物販売と資料配布を行いました。



■映画上映会・講演会  
ドキュメンタリー映画「パラダイス」ヨーロッパ(後援:UNHCR駐日事務所)を上映。同じUNHCRの小坂順一郎氏、難民事業本部の大原晋氏の講演を通して、難民を生み出す背景・状況を多くの方に知ってもらいました。

### Information

樺祭にて企画展示・販売を行います。  
11月22日(土)・23日(日)の成蹊大学樺祭において難民への理解を深めてもらうための企画展示を行います。ぜひお越しください。



12月下旬にイベントを開催予定。  
難民について、さらなる理解を深めてもらうためのイベントを企画中です。  
●日本在住の難民の方を迎えるの親睦会  
●自主制作の映画を上映  
●難民の国の料理紹介  
●難民について学ぶゲーム大会  
詳細決定後、「らくみん」公式ブログで公開します。  
<http://ameblo.jp/luckmin/archive1-200807.html>



公式ブログを  
随時更新中です。

●メンバー構成：学生・院生  
●活動内容：フェアトレード普及活動

### 活動実績

■勉強会  
●ドイツ・フェアトレードスタディーツアーに参加した成蹊大学OBによる報告会を開催  
●8つのフェアトレード団体の調査、勉強会を開催  
●成蹊小学校でフェアトレードに関する授業を実施



■フェアトレード飲料の試飲会  
成蹊大学中庭にテントを立て、フェアトレードコーヒーや紅茶の試飲会を開催。フェアトレードについての資料配布や、説明を行い、多くの学生・教職員の方に参加していただきました。



■フェアトレード団体ショップ訪問調査  
NGO「わかちあいプロジェクト」を訪問し、「フェアトレードサッカーボール」についてレクチャーを受けました。都内のフェアトレードショップを訪問し、ショップ紹介冊子を作成するための資料や情報を集めました。

■フェアトレード デイバート大会  
デイバートを通して、より深くフェアトレードについて考え、意見を交換しました。

### Information

樺祭にてフェアトレードカフェを出店します。  
11月22日(土)・23日(日)の成蹊大学樺祭において、教室にお洒落なフェアトレードカフェをオープンさせます。  
●コーヒー、紅茶、雑貨などの販売  
●生産場所、生産者などの写真展示  
●オリジナル冊子の配布  
などを行います。多くの方にフェアトレードに関心を持ってもらいたいと思います。ぜひお越しください。  
Seikei Fair Friends公式ブログ <http://ameblo.jp/seikeifairfriends/>

## フェアトレードの輪を広げませんか。 Seikei Fair Friends

代表  
メッセージ  
文学研究科 博士前期課程  
寺田恵美



貧困に苦しむ国の人々が作ったものを、豊かな国が適正な値段で買い取る。これをフェアトレードといいます。私がフェアトレードに興味を持ったのは大学2年生の夏にタイに行ったときのこと。現地の土産物屋で刺繍が施された立派な布を500円で買いました。そのとき、安く買えてうれしいという気持ちよりも、500円という安すぎる値段で買ったことへの疑問と罪悪感が残ったのです。帰国後、ボランティアに関する雑誌などでフェアトレードについて目にし、商品や作り手の労働力に見合った代金を支払えば、そのお金は有効活用されることを知りました。そして多くの人に、このフェアトレードを知ってもらいたいと思いました。  
一昨年の樺祭では「国際協力サークルMIX」の仲間と、フェアトレード商品を扱うカフェを出店。それがきっかけとなり、新しく「Seikei Fair Friends」というサークルを立ち上げました。勉強会やフェアトレード飲料の試飲会、フェアトレードショップ訪問調査などを行いましたが、そのなかで私自身の意識も変化していくのを感じました。最初は「フェアトレードはいいでしょ」「フェアトレードを活性化させよう」と言っていたのですが、今では「フェアトレードがいいか悪いかは別として、なぜフェアトレードが出てこなくはいけないのか」を消費者のみならずと考えていきたいと思うようになったのです。私たちが変われば世界も少しずつ変わるんじゃないか、そう信じてこれからも活動していきたいと思っています。

中学・高等学校  
演劇部顧問  
みやもと こうじ  
宮本 浩司 中学・高等学校教諭  
生徒たちとわかち合う喜び



1964年生まれ。1990年より成蹊中高在職(国語科)。「マリア」(校演劇Selection'97所収)。「ガーデン」、「月下-花の段-」(季刊高校演劇所収)。  
【主な受賞作品】  
「マリア」'94演劇研究会長賞・舞台美術賞  
'95全国高校総合文化祭優秀校公演特別出演賞  
「十二夜」'02米本一夫賞(中高私学大会最優秀)  
「マクベス入門」'05高校演劇研究会賞  
「美波」'06内木文英賞(中学私学大会最優秀)  
「月下-雪の段-」'08米本一夫賞

25.これは自分が脚本の制作に携わった作品の数。細かな改訂版を加えればさらに多くなる。一九九五年に中学・高等学校両方の顧問となつてからは、一つ終わると、次の作品へ、中学校が終わると、次は高等学校の舞台へ。そんなことをくり返して、気がついたら十七年になる。どの作品も、実際の芝居の中心以上の、芝居作りに没頭する生徒たちのさまざまなドラマがあった。「成蹊教育のいま」という重たいタイトルと、すでに登場された方々の立派なプロフィールを読むにつけても、気後れしてなかなか原稿に手をつけられなかった。「演劇教育」などと大上段に構えて顧問をしている自覚はまったくなく、大学時代に見始めた小劇場系の芝居のおもしろさから、非常勤講師として勤めていた前任校の演劇部の手伝いをして経験で演劇部の顧問となった。最初は野球部の顧問と兼任である。観客としての経験しかない、単なる芝居好きが生徒たちと時には戦いながら、一緒に芝居作りに励むうちに、自分自身が多くを学んだ。また、長い長い練習を経て舞台上立つ生徒たちが何かを得て大きく成長した姿を見るにつけて、これは授業では得られない学び、

25 X ささまざまな物語

大人と接する経験

教育なんだと実感するに至った。演劇部は、プロでもなかなか立てないすばらしい舞台での公演の機会に恵まれてきた。東京芸術劇場、国立大劇場、俳優座劇場、世田谷パブリックシアターなど。歴史や伝統、世界に誇れる有数の舞台機構を備えた舞台のすばらしさだけでなく、その舞台を支えている、優れたプロのスタッフの方々と、まったくの素人である顧問含めた生徒たちが、自分たちの芝居作りにプランニングから真剣に向き合い、叱られるが教えられてゆく経験は得難いものだ。大人といえど親や教師がらしか接することのない生徒たち。職人気質のスタッフさんの前で緊張しながら、挨拶の仕方から礼儀を含めて教えられる。学外での大会や演劇祭に参加することは大変だが、貴重な修行の場だと思っている。初めての俳優座劇場出演、危険の多い舞台で、わけもわからず右往左往する演劇部員たち。なぜ叱られるのかもわからず、その理不尽さに悔しくて、涙ながらに本番直前、僕に訴えかけてきた生徒の目が今も忘れられない。

自分を知らぬ「マリア」から「隆」へ  
顧問になって三年目。ビギナーズラックで、初めて脚本らしきものを書いた作品「マリア」は数々の賞をいただいた。池袋の東京芸術劇場で開催された都大会、出場できず裏方だった当時の部長から、来年高考の最後のチャンスに、どうしてもこの舞台に立ちたいと涙ながらに言われ



国立劇場で上演された「マリア」

た。その熱意から「マリア」は生まれた。どの作品も必ず、まず部員の顔があり、生徒たちが輝いて見える登場人物、舞台上に描かれた絵を思い浮かべて物語が生み出される。個性豊かで、がんばり屋の、魅力ある生徒たちがあってこそこの脚本だ。自分の書いた拙いセリフもストーリーも作品に向けた生徒の愛情で美しく生まれ変わる。作者としてこんな幸せなことはない。演技をすれば、おのずと、自分の話し方・動きの癖を知り、自分の役を理解しようとするはず。自分自身と向き合うことになる。「マリア」は、誰もが抱える、生まれながらにして逃れられないしがらみにもがく十八歳の女の子。今の作品の主人公「隆」は受験に行き詰まった高二の少年。作品を通して生徒たちに考えてもらいたいと思うことが多くなった。今回は、顔の見えないインターネットのコミュニケーションと、普通のテーマ、近すぎてわかっていない家族の存在について考えてもらおうと思った。



「五徳の鈴 星の贈り物 ~星の王子さまへのオマージュ~」  
私学大会協会長賞(準優秀賞)受賞

# 大学の近況

## 平成二十年度 新司法試験 本学から十七名が合格

九月十一日(木)、法務省より第三回「新司法試験」の結果が公表されました。本学法務研究科(法科大学院)より四十五名(内訳/既修二十三名、未修二十二名)が同試験を受験し、その結果、短答式試験の合格に必要な成績を得たのは三十八名、論述式試験を経て最終的に合格したのは十七名でした。合格した方には心からお祝い申し上げます。

法務省の発表によると、全国での総受験者数は六千二百六十一名、最終合格者は二千六十五名で、今回の新司法試験全体の合格率は三二・九八%でした。本学の合格率は三七・七八%と平均を上回る高い合格率を残しており、なかでも未修者の合格率は四〇・九%と、全国では四位、私立大学に限れば一位という結果になりました。

## 二〇〇八年度 学位授与式

二〇〇八年度学位授与式(九月卒業)が九月二十七日(土) 大学十号館十二階ホールで行なわれました。修了生・卒業生十六名が出席し、和やかに式が進められました。

修了者・卒業者数は左記のとおりです。



修了者数	工学研究科	1名
	経済学部	5名
	工学部	1名
	文学部	8名
卒業者数	文学部	8名
	法学部	8名
合計		23名

## 成蹊会振興助成金(スポーツ・文化) 贈呈式が行われました

大学の体育会と文化会に所属する在学生の活躍を期待し、卒業生から毎年「スポーツ振興助成金」と「文化振興助成金」が贈呈されています。今年度は六月二十三日(月)、学園史料館二階研修室で行われ、各クラブからの申請に基づき体育会本部が推薦した次の十団体に對し、「スポーツ振興助成金」が成蹊会スポーツ振興委員会の西川委員長(政経十八回卒)より手渡されました。西川委員長からは、母校のクラブ活動に対する卒業生の熱い期待が伝えられるとともに、四大学運動競技大会の活躍を祈念した激励がありました。本年は四大学運動競技大会「一般種目」の飛躍に期待し、体育会本部にも助成してまいります。

また、「文化振興助成金」も三団体に贈呈されています(後述)。

同窓生団体「成蹊会」では、卒業生からの会費収入を原資に、母校支援のための各種活動(育英奨学、学術・教育研究助成、スポーツ振興、国際交流、文化振興の各事業)を行っており、この助成もその一環として行われたものです。



◆スポーツ振興助成金(総額七十五万円)  
ヨット部/フィギュアスケート同好会/ライフセービング部/ラクロス部男子/アーチェリークラブ/応援指導部チアリーダー部/弓道部/水泳部/ハンドボール部女子/体育会本部

◆文化振興助成金(総額三十五万円)  
文化会本部/櫻祭本部/新聞会

## 合格者の声



門馬 明子さん

### 成蹊のように「人に温かい」、 そんな法曹になりたい

私は短期大学の非常勤講師として法学という教養科目を担当した経験から、現実の法的紛争の解決に直接携わりたいと考え、法曹を志望しました。本学の法科大学院を選んだのは、3年間法律に真剣に取り組むためには、成蹊の素晴らしい先生方による少人数教育を受けることが最も望ましいと考えたからです。

本学では、アットホームな雰囲気の中で勉学に励むことができました。1年目から著名な実務家教員による問答形式の授業があり、法律の難しさ、面白さを知って大きな刺激を受けました。また、授業を通じて先生方の法曹教育に対する熱意を感じ、私は、将来必ずや立派な法曹になって、先生方のご恩に報いたいと心に決めたものでした。さらに本学では事務局、図書室の職員の方をはじめとする関係者の皆さまが、学生に対して本当に親身になってくださいました。学生の抱える問題を解決しようとしてくださるその姿に、何度助けられたかわかりません。ご支援くださったすべての方に、心から感謝の意を申し上げます。

法曹の職務は常に困難がともなう厳しいものです。それでも私は、人の話に丁寧に耳を傾けるという基本を忘れず、いようと思います。それが、本学に温かく育てていただいた私の社会に対する使命だと思っております。

## 第47回 櫻祭 11月22日(土)・23日(日)開催!

### テーマ「彩-IRODORI-」

- シューティングビンゴ  
【22日(土)】14:00開演 場所:5号館102教室  
毎年恒例の目玉企画!今年はシューティングゲーム感覚を取り入れた、成蹊オリジナルのビンゴ大会です。目玉賞品は海外旅行!
- 石田衣良×倉田真由美 対談  
【23日(日)】12:30開場 13:00開演 場所:4号館  
入場料無料(先着順指定席制)  
当日9:00より正門前テント横にてチケットを配布します。
- テトリスム  
テトリスの要素を盛り込んだスタンプラリー。模擬店や展示教室をまわってスタンプを集め、テトリスの枠を完成させよう!
- Color Painting!!  
フェイスペイントを無料で体験できる企画です!
- キャンパスツアー  
【23日(日)】12:20~、14:20~、16:00~  
お祭りムードいっぱいの学内を成蹊生が案内します。
- けやきスペースランド  
毎年恒例、子どもたちのための企画!工作ゲームに挑戦しよう!



その他、学生による展示・催物や模擬店、フリーマーケットなどさまざまなブースがあります。

【お問い合わせ先】  
成蹊大学櫻祭本部(委員長 西海恒平)  
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422) 51-6102  
URL <http://www1.parkcity.ne.jp/f-keyaki/> e-mail [f\\_keyaki@hotmail.com](mailto:f_keyaki@hotmail.com)

## 第3回オープンキャンパス同時開催!

【お問い合わせ先】  
入試センター (0422) 37-3533

## 学内競漕大会「成蹊レガッタ」



6月18日(水)、晴天のもと戸田オリンピックボートコースを会場に、熱戦が繰り広げられました。毎年クラブ、サークル、ゼミなどから5人1組のチームが結成され、ナックル・フォアという艇でレースが行われます。

## 2008年度 後期公開講座のご案内

成蹊大学では、年2回公開講座を開催しています。1回のみを受講もできます。どなたでもご参加いただけますので、ぜひお出かけください。

2008年度後期公開講座「食」		
第1回	11月8日(土)	「一神教から現代日本の食を考える」 新屋 重彦(文学部教授)
第2回	11月15日(土)	「源氏物語と食」 木谷 眞理子(文学部准教授)
第3回	11月29日(土)	「食とエコ」 扶本 佳代(経済学部准教授)
第4回	12月13日(土)	「食のサイエンス —おいしさと健康を考える—」 原 節子(理工学部教授)

会場 : 8号館101室(各日共通)  
時間 : 13時30分~15時30分(各日共通)  
受講方法 : 申込み不要。当日直接会場へお越しください。(無料)  
お問い合わせ先 : 企画運営課 電話 (0422) 37-3535/FAX (0422) 37-3883  
e-mail [kouza@jim.seikei.ac.jp](mailto:kouza@jim.seikei.ac.jp)  
URL <http://www.seikei.ac.jp/university/>

## 成蹊大学理工学部 ハイテクリサーチセンター・シンポジウム

2008年11月23日(日) 時間 13時00分~17時30分  
場所 成蹊大学14号館505室

プログラム

時間	内容
13:00	開会
13:10~14:10	招待講演 「糖尿病の予防・治療とミネラル」 櫻井弘先生(鈴鹿医療科学大学薬学部教授)
14:20~14:50	「神経を伸ばす—誰もが自分を治療する近未来—」 久富寿(准教授)
14:50~15:20	「地球温暖化と砂漠化と大規模植林」 小島紀徳(教授)
15:20~15:50	「電気力で細胞を操る」 鈴木誠一(准教授)
16:00~16:30	「なぜ意識を失うのか —脳の不思議に迫る—」 渡邊大(ポストドクター)
16:30~17:00	「訪問介護サービスにおける需要と供給 —必要ヘルパー数と勤務負荷バランス—」 池上敦子(准教授)
17:00~17:30	「ナノ結晶は光る」 馬場茂(教授)
17:30	閉会

受講方法 : 申込み不要。当日直接会場へお越しください。(無料)  
お問い合わせ先 : 企画運営課 電話 (0422) 37-3535

## 卒業生の皆様へ 大学入試願書無料配付のお知らせ

書店等で販売中の2009(平成21)年度成蹊大学一般入学試験要項(願書)を、卒業生に無料でお送りいたします。下記の方法でお申込ください。

- 1 願書請求方法 : 電話、FAX、メールまたは郵便にて  
①氏名 ②住所\*1 ③電話番号 ④最終卒業校(大学は学部)  
⑤卒業年 ⑥必要部数 を成蹊会までご連絡ください。  
※1 郵送先は成蹊会登録の住所となります。

TEL : 0422-51-2244 FAX : 0422-54-6766  
e-mail : [seikeikai@jim.seikei.ac.jp](mailto:seikeikai@jim.seikei.ac.jp)  
社団法人成蹊会 大学入試願書無料送付係 宛

- 2 受付期限 : 平成21年1月19日(月)  
3 お問い合わせ先 : 成蹊大学入試センター 電話 (0422) 37-3533

# 中学・高等学校の近況

## ブレントウッド校との交流

六月十四日（土）から十八日（水）まで、アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるブレントウッド校から日本語を勉強中の中学生十一名が来校しました。隔年実施で三回目の来校です。スイカ割り、書道、茶道体験のほか、授業やクラブ活動の柔道や剣道にも参加し、交流を深めました。



## 健康講座

六月十九日（木）、中高大教室において学校歯科医である上田祥士先生に「歯の健康」と題して講演をしていただきました。

- 口腔の役割
  - 虫歯のできるまで、できる条件、進行、予防法
  - 歯周病とはどんなものか、
  - 歯周病と歯肉の腫れ、予防法
  - 虫歯、歯周病予防の実践
  - 虫歯、歯周病の治療法
- などのお話を伺いました。実際に中学生になると学年が上がるにつれて虫歯、歯周病が増えるというので生徒は上田先生のお話真剣に耳を傾けていました。

## 中学校 夏の学校

中学校一年生の夏の学校は七月十四日（月）から十七日（木）まで、二年生の夏の学校は七月十四日（月）から十八日（金）まで実施されました。例年、この時期は天候が不順でしたが今年是一年生、二年生ともに天候に恵まれ、全日程をこなすことができました。

一年生の夏の学校は「宿泊を伴う共同生活や体験学習を通じて自然に親しみ、自立を目指し、もったアルプスも見え絶景でした。ホテルに戻って昼食をとり、イベントの練習をしました。最初はやる気のなかった生徒もいたようですが、最終的にはどのクラスも一つになり一位を目指して練習をしていました。そして夜には恒例のキャンプファイヤー・レクリエーションを行いました。レクリエーションではダンス発表のほかに、ジェンカ、ビンゴ、教員のバンド演奏などがありました。途中で雨が降りそうだったので、室内に入りましたが、むしろ盛り上がり大変良い雰囲気で行えました。表彰が終わり、最後は教員のバンド演奏です。全員が拍手をし、後ろの席の生徒は立ち上がり、一体となって音楽を楽しんでいました。みんなが歌詞を口ずさみ、終わった後は清々しい顔をしていました。

## ケンブリッジ大学短期留学

七月十五日（火）から八月五日（火）までケンブリッジ大学で三番目に古いペンブルックカレッジが運営する国際プログラムに高校生二十五名（男子十一名、女子十四名）を派遣しました。このプログラムは成蹊大学とのつながりを持つ同カレッジが成蹊高校生のために用意するもので、成蹊学園国際教育センターと中高国際教育委員会が中心となって企画運営に当

## 仲間作りを行う「こと」が目的です。

一日目、八時三十分には学校を出発し、調布ICから中央道で宿舎のある車山高原を目指しました。途中、談合坂SA・八ヶ岳PAで休憩をとり、お昼過ぎにハイランドホテルに到着しました。昼食後、開校式を行い、四日間お世話になるホテルの関係者、医師、看護師等の紹介がありました。その後、早速、車山山頂を目指しましたが、山頂ではクラスごとに記念撮影をしました。さて、いよいよ班ごとの自然探検がスタートです。国の天然記念物に指定されている八鳥ヶ原湿原での散策は卒業生のヘルパーの方々に協力していただき、木道を進んで行きます。生徒はさまざまな花をチェックしながら、自然のすばらしさをたくさん発見していました。夕方、ホテルに到着するとアイスクリームが配られ、皆、一日歩き通した後だけに美味しそうに頬張っていました。三日目は体育館で「うどん打ち」を実施しました。「秘伝、達人に聞いたコツ」を見ながら、自分たちで小麦粉をこね、うどんも太かったり長かったりしましたが、打っていました。うどんの汁もカレー・けんちん・味噌煮込みと三種類です。野菜を洗い、皮をむき味見しながら味を整えていきました。うどんを茹でることができたのはホテルの方に手伝っていただきましたが、やはり自分たちで作った「うどん」は格別だったようです。夕食後、御諏訪太鼓の演奏を鑑賞、間近で見ると迫力に圧倒されていました。そして、クラス対抗「歌合戦&ダンス」とキャンドルサービスを行いました。



うどんの汁もカレー・けんちん・味噌煮込みと三種類です。野菜を洗い、皮をむき味見しながら味を整えていきました。うどんを茹でることができたのはホテルの方に手伝っていただきましたが、やはり自分たちで作った「うどん」は格別だったようです。夕食後、御諏訪太鼓の演奏を鑑賞、間近で見ると迫力に圧倒されていました。そして、クラス対抗「歌合戦&ダンス」とキャンドルサービスを行いました。

## 高等学校 学習旅行

この夏は北海道コース（七月十七日から二十日、三十六名）四国コース（七月二十九日から八月一日七月三十日から八月二日、八十六名）沖縄コース（八月二十九日から九月一日、六十二名）韓国コース（八月二十六日から三十日、四十三名）を実施しました。今年で七回目



たっています。事前学習では法学部の坂野由紀子先生から「イギリスの芸術と建築入門」の講義を受け、英会話学習などを行いました。安全管理・時間管理・健康管理の三つの管理を守り、全行程を無事に遂行することができました。



その後、休憩をしてから避難訓練と開校式を行いました。お風呂はジャグジーもあり、夕食はバイキングで生徒は楽しそうでした。夜は雨が降ったりやんだり不安定な天候でしたが、蛍の観察を行いました。生徒の多くは蛍を見るのが初めてで、その神秘的な光に感動していました。二日目はホテルの前の小高い丘を登って池廻りのコースへ向かいました。渋池、四十八池、大沼池を散策しましたが、特に大沼池は透き通った青で例年には見られないきれいな色をしていました。昼食をとってから一時間ほど歩きました。途中、青く澄んだ大沼池の上にはきれいな虹が丸く空にかかっており、とても素敵な景色でした。三日目、この日も天気は快晴です。バスで信州大学志賀自然教育園に向かいました。午前中は班行動で、いろいろなクイズに答えながらの散策でした。看板に答えが書いてあるのですが、お喋りに夢中で気付かないで通り過ぎた班もありましたが楽しい散策だったようです。午後班行動で長池の近くで昼食をとり、バスが待機しているところまで歩きました。岩が多く、歩きにくいところもありましたが、二日目同様池が多く、澄んだ池が見えると気分は爽快になりました。入浴から夕食までの間は、クラス毎にイベントの練習をしました。四日目は横山山登山です。バスで横山山のぞき駐車場に行き、そこから頂上を目指しました。頂上の展望台からは雪が積

となる韓国コースでは「日本と韓国の歴史が両国民に刻んだ認識をどのように発展させていくのか」を考えることを目的としています。今年もソウルにある光新高校と交流を深めました。



## 普通救命講習会

七月十二日（土）、中高第一体育館において中学三年生と高校生の保健委員を対象に、武蔵野消防署の指導で普通救命講習会を行いました。中学生は災害時や日常起こり得る緊急時の対処法を学ぶために、心肺蘇生・AED使用・応急手当など救命救急活動の訓練を熱心に受けていました。また、成蹊大学文学部で応急手当普及員の授業を受けた学生たちがコーチとして参加しました。なお、AED（自動体外式除細動器）は中高内では中高守衛所、中高保健室、中高第一



## 運動部・文化部の活躍

### ● 中学硬式庭球部男子 (団体)

東京都中学校テニス選手権大会 優勝  
 関東中学校テニス選手権大会 優勝  
 全国中学校テニス選手権大会 第3位

### ● (個人)

東京都中学校テニス選手権大会  
 シングルス 千田航平 ベスト4  
 志村太和 ベスト32  
 石川誠太 ベスト32  
 富山竜帆 ベスト32  
 ダブルス 千田航平・溝間奎輔 優勝  
 志村太和・富山竜帆 ベスト4  
 石川誠太・横山一輝 ベスト16

### ● 関東中学校テニス選手権大会

シングルス 千田航平 出場  
 ダブルス 千田航平・溝間奎輔 優勝  
 志村太和・富山竜帆 ベスト4  
 石川誠太・横山一輝 出場

### ● 全国中学校テニス選手権大会

ダブルス 千田航平・溝間奎輔 ベスト8  
 志村太和・富山竜帆 出場

### ● 中学硬式庭球部女子 (団体)

東京都中学校テニス選手権大会 ベスト8  
 関東中学校テニス選手権大会 ベスト8

### ● (個人)

東京都中学校テニス選手権大会  
 シングルス 池田玲 ベスト4  
 ダブルス 池田玲・生方沙紀 ベスト4

### ● 関東中学校テニス選手権大会

シングルス 池田玲 ベスト16  
 ダブルス 池田玲・生方沙紀 第5位

### ● 全国中学校テニス選手権大会

ダブルス 池田玲・生方沙紀 出場

### ● 高校吹奏楽部

第48回東京都高等学校吹奏楽コンクールにてA組「銀賞」受賞  
 (東京都高等学校吹奏楽連盟主催)

# 小学校の近況

## 新校舎が完成しました

### 〈始業式の朝〉

成蹊学園創立百周年記念事業に伴う施設再開の一環として昨年五月から進められてきた新校舎建設が完了し、二学期始業式から子どもたちが新校舎の使用を開始しました。

小学校玄関は午前七時半に開門します。始業式の朝は、教員が玄関や通路、各階フロアに立って全学年を新しい教室に誘導しました。真新しい教室や広いテラスを嬉々として動き回る子どもたちを眺めていると、あらためて「子どもたちあつての学校」という思いを強くしました。

### 〈始業式の学級通信〉

ところで、子どもたちを新教室に迎え入れる担任はどのような思いでいたのでしょうか。始業式の日が発行された学級通信の中からその部分を切り取って紹介します。

通信は前日までに準備しますから、まだ新校舎に入った子どもたちの実際の声や姿はありません。しかし担任の新校舎への期待が伝わってきます。

### 担任の想い



教室

●夏休み中に引越しを終えた新校舎。いよいよ今日から新しい校舎での学びが始まります。卒業生が新校舎を見に来ては、驚きの声をあげていました。一年生はどんな声をあげるのでしょうか。北組の教室は、目の前に図書コーナーがあります。今まで以上に、本に親しみやすくなりそうです。

(二年北組通信「ほのか」)



図書室

●今日からいよいよ新校舎に登校します。楽しみも半分不安半分だったのではないでしょうか。何もかもが新しいなか、使い方を守って、きれいな状態が長く続くように大事に校舎を使っていけるよう指導していきたいと思えます。

(二年西組通信「あしあと」)



理科室

●静かだった学校に活気が戻ってきました。二学期の始まりです。そして新しい校舎(本館)での学校生活初日でもあります。子どもたちは、今までにない「わくわくとどきどき」で登校してきたことでしょう。教職員は、八月十八、十九日に出勤し、一足先に新校舎へ入り、ダンボール箱に入った荷物出し作業と整理整頓を行いました。十九日の午後には、校内の機器備品使用説明会があり、各担当業者が限られた時間の中で丁寧に話してくださりました。最新鋭の機器ばかりで、担任はただただ驚きばかりでした。

(三年南組通信「こっこ」)



けやきホール

●二学期は新校舎からのスタートです。工事をしている様子をのぞいては、この日を楽しみにしていた子どもたち。新校舎に大興奮でした。新しい校舎を一番に使えることは大変幸せなことですが、これから成蹊小学校に入学してくる後輩たちにも、このきれいな校舎がなるべくきれいなまま残せるように大切に使用していきたいです。また、ガラス窓がたくさん使われている新校舎です。約束を守らなければ危険なことも出てきます。しっかりと約束を



岩石園

●新学期が始まりました。今年の新学期は、新校舎での新学期です。新校舎は、周囲も含めて新しくしました。六角池は、形を変えてピオトープとして生まれ変わりました。新しい教室への引越は、夏休み中に行いました。旧教室の荷物をまとめダンボールに詰めるだけでしたが、新校舎でそれを開き、棚などにつめるだけで二日。疲れがありました。新校舎の説明会もありました。教室内のさまざまなものの説明(例えば、窓側のドアは、取り扱いがむずかしいのです)を聞きました。機器備品の説明ももちろんありましたが、色々聞いて忘れてしまったものもあるくらいです。

(五年南組通信「道」)



ワークスペース

●本日より二学期。新校舎での生活がスタートしました。心ときめかせながら、この日を迎えたことでしょうか。夏休み中に引越しをすませた学校は、子どもたちのために本日から動き始めます。新校舎は、とてもきれいで、広々とした空間をいくつも備えて

います。思わず駆け出しなくなる思いをグッとこらえ、上手に効果的に活用できるよう、知恵を出し合って生活を作っていくってほしいと思っています。慣れるまでに、しばらく時間がかかるでしょうが、卒業までの日々を過ごすこの場所が、皆にとって居心地のよい空間になるよう願っています。これまでより狭くなった教室も、ロッカーなどが備え付けで、機能的になりました。皆のまとまりもより強いものになることでしょう。

(六年東組通信「こいのぼり」)

### 〈全校授業参観〉

保護者の方々に子どもたちの学習をご覧いただく全校授業参観日は、例年六月中旬に実施されていますが、今年には新本館使用にあわせて九月二十日(土)に計画しました。しかし台風接近という残念な気象状況でしたので、児童の安全を最優先して十月十八日(土)に延期しました。

なお、校舎建設でお世話になった方々やOB教員、保護者代表の方々をお招きしての新校舎竣工記念の「感謝の集い」は中止とさせていただきます。

### 夏の学校

気象庁が梅雨明けを発表したのは、七月十九日(土)のことでした。七月中旬から実施した一年、三年、五年、六年のそれぞれの夏の学校は、お天気に恵まれ全日程を無事終了することができました。



### 夏のクラブ学習・合宿教室

夏休みには、高学年の子どもたち二百四十九名を対象にして、すべてのクラブ学習で「合宿教室」を開設しました。

- 家庭部(津久井) 7月28日から二泊三日
- 科学部(南小谷) 8月1日から四泊五日
- バドミントン(車山) 8月11日から三泊四日
- バスケットボール(校内) 8月26日から通い四日
- 硬式テニス(軽井沢) 8月28日から四泊五日
- バレーボール(新鹿沢) 8月24日から四泊五日
- ラグビー(新鹿沢) 8月24日から四泊五日
- サッカー(小淵沢) 8月22日から四泊五日
- 野球(軽井沢) 8月25日から四泊五日
- ブラスバンド(箱根) 8月28日から二泊三日
- 太鼓(東山梨) 8月27日から三泊四日
- 陸上運動(校内) 8月25日から通い五日
- 美術(津久井) 7月28日から二泊三日
- 卓球(校内) 8月27日から通い三日

夏休み中の「通い練習」や「合宿教室」は、週一回(金曜日実施)のクラブ学習に比べてより密度の高い学習ができるため、二学期からのクラブ



守って有効に使えるように指導していきたいと思えます。この新校舎には、たくさんの方々の労力(努力)と熱い思いがこもっています。施設再開発委員の方々は、五、六時間もの会議を何度も重ねて、子どもたちにとって学習・生活しやすい環境を整えてくださいました。事務の方や工事の方々も夜遅くまで整備してくださいました。そういう日々を重ねての新校舎であることも子どもたちなりに理解してほしいと思えます。

(四年西組通信「さくら」)

学習も順調にスタートすることができました。

今年、家庭部と美術部の子どもたちが、神奈川県津久井郡の「篠原の里」で合同合宿をしました。家庭部の子どもたちが美術部の子どもたちに食事やおやつを提供するなど、新しい試みも見られた夏のクラブ学習合宿教室でした。

### 校内安全対策の充実

#### 〈新校舎の避難経路を確かめる全校避難訓練〉

九月十日(水)朝の時間に、新校舎での初めての避難訓練を行いました。小学校では、訓練開始直後の一次避難(教室などでの危機回避訓練)と全校児童がポプラグラウンドに集合する二次避難(全校児童の安全確認)を徹底して訓練しています。今回は、予め設定した新教室からポプラグラウンドへの各学年避難経路を体験させる大事な訓練でした。訓練開始から五分で、全ての子どもたちが無事にポプラグラウンドに集合し安全確認をすることができました。

#### 〈小学校全教員での不審者対策講習会〉

始業式に先立って九月二日(火)に、全教員が防犯訓練を行いました。四月四日(金)の応急救護講習に続いて二回目の安全対策講習会でした。武蔵野警察署の指導で、さすまた(刺股)による不審者制圧の方法など、具体的な知識を得ることができました。







ありま たつお  
有馬 龍夫氏

**略歴**  
昭和25年 成蹊中学校卒(成蹊高等学校在学中にセントポールズ校に留学)  
昭和32年 Harvard 大学政治学部卒業(BA, Ph.D.) 同助手、講師  
昭和37年6月 外務省入省:北米局長、内閣外政審議室長、オランダ駐劄特命全権大使、ドイツ連邦共和国駐劄特命全権大使  
平成9年12月 外務省参与  
平成10年4月 早稲田大学政治経済学部教授(～平成16年3月)  
平成10年8月 日本国政府代表  
平成14年6月 中東和平問題担当特使  
平成14年12月 中東調査会理事長

**Publications**  
The Failure of Freedom: A Portrait of Modern Japanese Intellectuals (1969 Harvard University Press)  
The Inner Landscape of Japanese Culture (A Booklet, 1988, Hoover Institution, Stanford University) and others.

**記念事業局主催講演会**

**講演者**  
有馬 龍夫氏  
(日本国政府代表)

**日時**  
12月20日(土)  
12:00～12:50  
(開場 11:30)

**場所**  
成蹊大学8号館101室

**【お問い合わせ先】**  
広報課  
(0422) 37-3517

**TOPICS 学園**

成蹊から  
お伝えしたいこと

創立一〇〇周年記念事業局主催講演会開催  
―有馬龍夫氏をお招きして―

成蹊学園では、毎年創立一〇〇周年記念事業の「募金推進の集い」で、卒業生による講演会を開催しております。

今年度は、成蹊中学校卒業生(その後セントポールズ校に留学)で日本国政府代表としてご活躍されている有馬龍夫氏をお招きし、成蹊学園での思い出や国際舞台での豊富なご経験に基づいた国際理解教育の大切さ、成蹊教育への思いなどについてご講演いただく予定です。本講演会は在校生、卒業生、保護者、教職員、旧教職員の方々にも公開いたします。ぜひお気軽に聴講いただきたく、皆さまの参加をお待ちしています。

## 携帯電話からの募金申込システム稼働のご案内

パソコンからのクレジットカード決済に加え、携帯電話からも寄付のお申し込みができるようになりました。簡単にお手続きできますので、ぜひご利用ください。

※ご利用いただけるのは、i-mode、EZweb、Yahoo! ケータイに対応した機種となります。



- 1 上の二次元バーコードを読み取り、空メールを送信してください。読み取れない場合は [bokin@sk.seikei.ac.jp](mailto:bokin@sk.seikei.ac.jp) に、直接空メールを送信してください。
- 2 数秒後にURLが記載されたメールが返信されますので、そのURLにアクセスしてください。
- 3 「成蹊学園募金モバイルサイト」が表示されますので、お手続きください。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

## パソコンをご利用の場合



- 1 成蹊学園トップページ <http://www.seikei.ac.jp> を開き、画面右上にある「100周年記念事業」をクリックしてください。
- 2 100周年記念事業ページの右下にある「パソコン・携帯電話からの募金のお申し込みはこちら」をクリックしてください。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

**【ご利用にあたって】**

- クレジットカード決済は、個人の方のみご利用いただけます。(法人・団体でのご寄付をご希望の場合は、誠にお手数ですが募金局までお問い合わせください)
- ご寄付者名とカード名義人は同一である必要があります。
- ご利用いただけるカードは、DCカード・VISAカード・マスターカードです。

**【お問い合わせ先】**  
成蹊学園  
創立100周年記念事業募金局  
電話：0422-37-3941  
Email：fund@jim.seikei.ac.jp

### 新潟・長野 2会場 地域懇談会を開催しました

2008年度地域懇談会を下記の2会場で開催しました。

**新潟会場**  
(対象地域：新潟県・富山県・石川県)  
日程：2008年 9月6日(土)  
会場：ホテルサンルート新潟  
参加者数：24名

**長野会場**  
(対象地域：長野県)  
日程：2008年10月4日(土)  
会場：ホテルサンルート長野  
参加者数：28名

今年度は初めての試みとして、開催前に希望者を対象に個別相談を行い、学校生活や就職状況などについて話し合われました。懇談会では「成蹊学園創立100周年に向けて～100周年記念事業と募金について～」、「進化する成蹊大学」、「就職状況説明」の3講演に引き続き、卒業生から成蹊学園での思い出をお話いただきました。第2部の懇親会では、和やかな雰囲気の中相互に交流を深められ、盛況のうちに閉会となりました。

### 「2008年度グッドデザイン賞」受賞!

情報図書館が、財団法人日本産業デザイン振興会が運営する「2008年度グッドデザイン賞(社会領域、公共施設・建築分類)」を受賞、11月6日(木)に授賞式が行われました。

「従来の図書館建築にはないダイナミックな空間」や、「キャンパス環境への配慮」等が審査委員に高く評価されました。

グッドデザイン賞HP <http://www.g-mark.org/index.html>  
情報図書館HP <http://www.seikei.ac.jp/university/library/index.html>



### R&Iによる格付けを再取得 AA-を維持

学校法人成蹊学園は、2003年度より引き続き「株式会社格付投資情報センター(R&I)」の格付けを右記のとおり取得しました。

- 発行者 学校法人成蹊学園
- 名称 発行体格付け
- 格付け AA- (維持)
- 方向性 安定的

R&Iによる格付け評価のポイントは、次のとおりです。

1. 大学で2008年度に実施した大規模な入試改革は、上々の成果を上げた。3年続けて志願者が減少していた流れに変化を生じさせることができたことと評価できる。全学部統一日程や試験科目の統一など、各学部が足並みを揃えたこともこれまでにない動きである。2010年度からは全学共通教育も開始する計画で、一つのキャンパスで全ての学部と全ての学年が学ぶ強みを生かせる環境が整ってきた。
2. 2012年の成蹊学園創立100周年に向けて、過去最大級の設備投資を進めているが、校舎の新築など大規模な案件は2008年度ではほぼ一巡する。必要資金は計画的に積み立てており、財務の安全性が著しく損なわれる可能性は低いと判断している。帰属収支差額比率が低下傾向にあることは懸念材料だが、経費の管理や学費の見直しなど経営改善に取り組んでいる。

格付投資情報センター(R&I)のホームページは下記をご覧ください。  
URL <http://www.r-i.co.jp/jpn/index.html>